

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1490400023
法人名	社会福祉法人豊笑会
事業所名	ライフハウス 日ノ出
訪問調査日	平成 20年 12月 8日
評価確定日	平成 21年 1月 5日
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

○項目番号について

外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1490400023
法人名	社会福祉法人 豊笑会
事業所名	ライフハウス日ノ出
所在地	横浜市中区日ノ出町2丁目132番3 (電話)045-260-5022

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成20年12月8日	評価確定日	平成21年1月5日

【情報提供票より】(20年11月 10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 10 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 11.4	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋 RC 造り
	4 階建ての 3 階 ~ 4 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	50,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(543,000~550,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(11月 10 日現在)

利用者人数	16 名	男性	名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	8 名		
要介護3	1 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 82.6 歳	最低 54 歳	最高 101 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人回生会 ふれあいよこはまホスピタル
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- ・事業所は、京浜急行日ノ出駅から徒歩4分の神社や学校・公園に近い住宅地にあり、4階建て建屋の3・4階に位置している。1・2階には同法人の小規模多機能型と通所介護事業所があり、日常的に行き来し交流する機会が多い。
- ・法人が特別擁護老人ホームを運営しており、家族には介護度が進んだ場合の安心感を与えている。
- ・町内会主催の餅つき大会や桜祭り、夏祭りの他、利用者は町内会館で行われる「ふれあいサロン」の落語会に参加するなど、地域との関わりには積極的に対応している。事業所は、臼と杵を提供したり、また、開所記念祭に住民を招いて交流を深めている。
- ・地域のボランティアが定期的に開催する習字・大正琴・朗読などが利用者に好評である。

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ・前回の評価での改善課題であった、「家族からの意見や不満・苦情の処理マニュアルの整備」、「重度化や終末期介護への事業所の対応の明確化」については、それぞれ所定のマニュアルを整備して研修を行なうなど、管理者以下全職員で取り組み改善している。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ・今回の自己評価にあたっては、職員全員に評価票を配布して記入してもらい、ユニットリーダーが取りまとめ、管理者が内容を再チェックした。自己評価の作成過程で気づいた改善点については、改めて職員に説明し改善に取り組んでいる。
	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ・運営推進会議は、前回7月に実施し今回は12月の予定で、参加者は家族・自治会長・民生委員・地域包括支援センター・職員である。 ・会議では、事業所の活動状況や利用者や職員の現状、ボランティアの受入状況等を報告している。前回自治会長から、町内会館の「ふれあいサロン」への参加要請があり、その後利用者がサロンで落語などを楽しんでいる。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ・家族の来訪時に職員が面談し、意見・苦情を積極的に聞いている。提出された意見や要望は、管理者に報告したのち、カンファンレンスで話し合いサービスの改善に反映している。フロア入口に、意見箱を置き、意見を出し易いように工夫をしている。 ・重要事項説明書に、相談窓口と外部申し立て機関を明記し入居時に説明している。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ・自治会に加入している。利用者は町内会主催の餅つき大会や桜祭り・夏祭りに参加したり、町内会館で行われている「ふれあいサロン」で落語などを楽しんでいる。 ・地元中学生を事業所での体験学習に受け入れ、また、保育園児が定期的に事業所に慰問に訪れている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・家庭的な環境のもと、日常生活の中で心身の機能訓練を行い、安心と尊厳のある生活を自立して営むことができるよう支援する」を理念としている。 ・職員マニュアルで、理念の実践には地域との連携の重要性を具体的に記載している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念は各階玄関フロアと事務室に掲示し、全員で共有している。 ・管理者は毎月の会議で、職員が常に理念に基づいた支援を実行するように指導している。 ・新入職員には、オリエンテーションの折、理念とその実践について説明している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会に加入している。町内会主催の餅つき大会・桜祭り・夏祭り等に参加している。餅つき大会には事業所の臼と杵を貸しだし、自治会や町内会に、会合の場所を提供している。 ・地元中学生の体験学習を受け入れ、保育園児が定期的にホームを訪問し利用者とは交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・職員全員が自己評価を記入し、ユニットリーダーが取りまとめ管理者が最終判断をして完成させた。 ・職員は自己評価での気づきを、具体的な改善に向けて取り組んでいる。 ・前回の課題は管理者を中心に改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・運営推進会議は、7月に実施し、次回は12月の予定であり、自治会長・民生委員・地域包括支援センターの職員・家族・職員が参加している。 ・事業所の活動状況、利用者と職員の現状、ボランティア活動等を報告した。町内会館での「ふれあいサロン」への誘いがあり、その後参加している。		

ライフハウス日ノ出

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・横浜市グループホーム連絡協議会に加入しており、福祉に関する各種の情報を得ることができ、また、研修や講演に参加して、サービスの質の向上に役立てている。 ・区の健康福祉課とは介護度の高い利用者の支援内容等について相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・家族来訪時や運営推進会議の場で、利用者の暮らしぶりや健康状態などの近況を報告している。 ・来訪のない家族には、請求書と一緒に、利用者の状況を手書きにて送付している。 ・金銭管理は、毎月管理者が確認し6か月毎に出納帳を家族に送り確認印を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族の来訪時に職員が面談して、意見や苦情を積極的に聞くようにしている。結果は「苦情処理マニュアル」に則って管理者に報告し、カンファレンスで検討して改善し、結果を提案した家族に報告している。 ・重要事項説明書に、内部の相談窓口と外部の申立機関を明記し、契約時に説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・職員の異動を最小限に抑えるため、管理者は職員とのコミュニケーションを重視して、職員の意向を受け止めている。 ・利用者には、不安な状態を長引かせないように、異動情報を直前に説明し、その後は馴染みの職員が積極的に声掛けして精神的なケアを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・新入職員を対象に年2回、法人での集合研修を実施している。事業所では入社時にOJTを行っている。 ・横浜市グループホーム協議会の研修や講習会等の案内をフロアに掲示し参加希望者を募り、参加者には勤務日程の変更や時間外手当を支給している。	○	・職員の研修にあたっては、年間研修計画をたてて、計画的に必要な知識や技能の習得を図られることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・横浜市グループホーム連絡協議会に加入している。当協議会は4グループに分かれて活動しているが、必要に応じて、他グループの行事にも参加して交流している。 ・協議会主催の実務研修や勉強会、見学会等に職員が参加して、サービスの質の向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者と担当職員が、家族と本人に面談し、状況によっては、予め2階のデイサービスで馴染んでもらったり、職員との面談を重ねて、本人が納得して入居できるよう工夫している。 ・入居後職員は、利用者の性格、好み等を会話の中から汲み取り、安心して生活できるよう配慮している。 		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は、利用者の生活歴や日常会話から趣味、楽しみを見出し、生活の場で活かせるように支援している。手伝ってもらったときは感謝の言葉を掛けている。 ・職員は利用者を人生の先輩として尊重し、若い時代の生活や世相などを聞き学ぶことが多い。 		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> ・職員は居室担当制を採っており、利用者の希望や意向等を聞きだして情報を全員で共有している。 ・自分の意向を言葉で表せない利用者には、話し掛ける機会を多く持ち、表情や動作から把握している。 ・定期的に利用者、家族や医師から新しい情報を聞き出して、入所時のアセスメントに追加している。 		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・入所1週間後に、本人や家族の意向、かかりつけ医の意見を取り入れ、ユニットリーダーと居室担当者を中心になって、介護計画を作成している。 ・毎月のユニット会議で情報を交換し、全職員の意見を反映して介護計画の作成に取り組んでいる。 		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> ・介護計画は、通常6か月を経過した時点で、利用者・家族の意向やかかりつけ医の意見を取り入れて見直している。 ・途中で、利用者の状態が変化した場合には、その都度見直しを行っている。 ・介護計画を見直し後家族から同意の印を得ている。 		

ライフハウス日ノ出

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・通院に家族が付き添えないときや、利用者の個人的な買い物には、可能な範囲で対応している。 ・ボランティアによる車椅子ダンスや三味線演奏等にはデイサービスと一緒に参加し、広いフロアで楽しんでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・個人的にかかりつけ医を利用している1名以外は、協力医療機関をかかりつけ医としている。個人的かかりつけ医も協力医療機関と同様、月2回の往診がある。 ・職員は、年1回健康診断を受けている。利用者については訪問診療で対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・事業所で終末期の対応を行わない方針を、入居時に本人と家族に説明している。 ・重度化した場合は、特別養護老人ホームを紹介したり、入院が必要な場合は、家族とかかりつけ医に相談して病院を紹介している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・利用者の誇りやプライバシーを損ねないように、接遇マニュアルをもとに指導を徹底している。 ・フロアに個人情報保護に関する方針を掲示しており、職員とは、入職時に誓約書が取り交わしている。 ・個人情報に関する資料は書庫に施錠管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・アセスメントで把握した趣味や生きがい、日常生活で把握した利用者の思いや希望を活かしてその人らしい生活ができるように支援している。 ・散策、買い物、屋上での日光浴等、利用者のペースや希望に沿って支援を行っている。		

ライフハウス日ノ出

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・下準備は、できる範囲で職員と一緒にいき、味付けは利用者の好みに合わせている。 ・誕生日には本人が好きな献立を採り入れたり、ホテルなどでの外食の機会を設けている。 ・食卓の席は、利用者同士の相性に配慮している。 		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴日は、3階と4階で週3日ずつの午後と決めているが、入浴時間は自由で利用者の希望に任せている。なお、失禁があった場合は何時でも入浴が可能である。 ・入浴剤や季節の菖蒲湯・柚子湯を取り得れ入浴を楽しめる工夫をしている。 		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の生活歴や能力を活かして、食事・洗濯等の生活面やレクリエーション面で力を発揮できるよう支援している。 ・誕生会や季節の行事が楽しみの一つとなるように、年間行事と毎週の予定を掲示している。 ・ボランティアにレクリエーション活動にご協力をお願いし、生活の幅を持たせている。 		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・外出希望者は、天気の良い日散策に出掛け、車椅子や重度の利用者には屋上の日光浴を楽しんだり、隣の神社に出掛けている。個人の買い物の希望にも応じている。 ・年間の行事計画をもとに、花見や紅葉の季節にはドライブなどの遠出をしている。 		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・3、4階のホームへの入口と居室は施錠していない。1階の玄関は防犯上施錠している。 ・職員は利用者の意向や癖を熟知して対応しており、利用者も外出を希望すれば、何時でも出かけられる安心感がある。 		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署の指導で年2回防火訓練を実施し、初期消火や避難の仕方を学んでいる。 ・防災マニュアルと夜間災害時の連絡方法を、事務室に掲示している。 ・災害時に備えた食料等の備蓄が今後の課題である。 	○	・災害時に備えた2.3日分の食料・水の他、寒さをしのぐ物品等の備蓄が望まれます。

ライフハウス日ノ出

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の栄養価・カロリーは食材業者で管理している。予め利用者の好き嫌いを把握して対応している。 ・水分量は1日1,200CCをめどに摂取しており、摂食量と共に日々記録している。 ・嚥下や飲み込み障害の利用者には、刻みやトロミで飲み込み易くしている。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
埜					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・玄関やベランダに花を植え季節感をだしている。 ・ソファでテレビを観たり、テーブルで気のあった者同士や職員が、ゆったりと寛いでいる様子が見られた。室内には、クリスマスツリーや手作りのレースを飾り雰囲気を出している。 ・廊下の照明にダウンライトを付けて安全に配慮している。 		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居室のドアには手作りの名札と利用者の写真をつけて、部屋の識別を容易にしている。 ・居室には、使い慣れた家具や仏壇等を持ち込み、家庭と同じ落ち着いた雰囲気になっている。 ・居室は利用者自身で内側からの施錠も可能で、本人の意思を尊重した対応をしている。 		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ライフハウス日ノ出
(ユニット名)	3階
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市中区日ノ出町2-132-3
記入者名 (管理者)	酒井智恵子(管理者) 中村叔柄(3階ユニットリーダー)
記入日	平成 20年 11月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	地域の方々との交流を今後も深めたい。近所の方が気楽に遊びにきてくれたり、利用者の話し相手になってもらえるような環境を作りたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

ライフハウス日ノ出(3階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	利用者への生活支援で手一杯であり、地域の高齢者への支援等に関しては取り組む余裕がないのが実状である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	実施する意義を理解し、評価結果がでたら注意点を見直し、より一層のサービスや質の向上を目指して改善していくよう取り組んでいる。		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	12月中旬に次回の運営推進会議を開催の予定 運営推進会議の内容を生かしてサービス向上に役立てている 地域との交流ができた		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	横浜市グループホーム連絡協議会に参加し、様々な情報入手や学びあうことにより、サービスの質向上に役立てている。		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	制度に関しては利用者やご家族に説明し、必要性のある利用者には管理者と相談しながら活用できるよう支援している。		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	特に入浴時は全身観察を行い、身体的虐待がないか注意している。また、職員・利用者間において侮蔑または言語による心理的虐待がないかも注意している。		

ライフハウス日ノ出(3階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>直接契約・解約を行うのは管理者の業務だが、日常生活や介護に関する疑問を職員が受付けた場合には、納得していただけるまで説明を行っている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者側からの意見・不満・苦情を十分理解し、ありのままの内容を正確に伝え、職員会議やカンファレンス等で、改善に向け話し合っている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族が来所された際は、利用者の日常生活の様子や健康状態を報告している。金銭管理は管理者が行い、定期的に明細を通知している。 遠方に住んでいるご家族はなかなか来られないため、手紙等の手段を用いて利用者の様子を密に報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の意見は速やかに管理者に報告しており、カンファレンスで話し合いの機会を設け運営に反映している。また、フロアの出入りに記入用紙を設置したり、居室担当者が普段から積極的に家族に接して話しやすい環境作りをしている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議やカンファレンス等を利用して、意見交換する機会がある。 同じ系列のグループホームとの交流会があり管理者・各フロアのユニットリーダーが参加して運営者に現場の声を直接届ける機会がある</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>急に利用者の体調が悪くなり、ご家族が受診に付き添えない場合や管理者が不在の時は、職員が勤務時間を調整(残業等)して対応している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動・退職があった場合、利用者が不穏にならないよう精神的なケアを考慮している。</p>	

ライフハウス日ノ出(3階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>講習会や研修への参加の呼び掛けを行っており、参加希望の職員については勤務変更も実施している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>横浜市グループホーム連絡協議会に加入しており、同業者と交流する機会や勉強会に参加している。そのような機会を多くの職員が利用して相互間の連携を密にとりながらサービス・質の向上を目指している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員を労うため、年1～2度程の親睦会を計画している。休憩室は設置してあるが、職員がゆっくり休憩をする場所がない。</p>	<p>○ 落ち着いて休憩できる場所の確保は、職員の共通の要望であるため、ぜひ実現したい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>勤務年数の経過により実践者研修等の参加申込の奨励をしている</p>	<p>○ 運営者は職員各人との面談を半年に一度くらい設けて、不安なことや希望要望を話す機会を定期的につけてほしい。その際、職員の勤務状況についても運営者から注意すべき点や努力の跡、実績についてははっきり伝え、向上心を持って働く意欲を引き出してほしい。</p>
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前には必ずアセスメントを実施するため、直接ご本人に面会し、不安なことや希望・要望を傾聴して相互間の理解に努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>電話での問い合わせや施設見学の段階から相談しやすい雰囲気作りに努め、相談を受ける際はご家族の意見・要望等をよく傾聴・受容し、信頼関係を築く取り組みに励んでいる。</p>	

ライフハウス日ノ出(3階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・職員と検討し、本人にとってより良いサービス利用になるよう対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人に説明し承諾を得てから、抵抗がないように徐々にサービスを実施している。不明な点はすぐにご家族に相談している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとり人生の先輩として、これまでの経験や人生の歴史を傾聴しながら色々なことを学び、毎日楽しく過ごせるよう支援している。 今後とも一方的な介護関係にはせず、互いに支え合っていけるような関係作りを目指していきたい。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と話す機会は少ないが、報告・相談・連絡は実施するようにして、利用者のケアを共に行っていけるよう支援している。 今後とも報告・相談・連絡は行っていき、さらなる連携をとってサービスを提供しながらご家族の介護負担の軽減を目指していきたい。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人が以前よりも落ち着き、笑顔を引き出して楽しく暮らせるよう職員がケアを実施しているので、本人とご家族とのより良い関係につながっている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が自由に訪問できるようにしたり、利用者の方が忘れないよう馴染みの人の話題を出す等支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人の個性を大切にし、孤立したり仲が悪くならないよう職員が間に入り、利用者同士が仲良く関わりを持てるよう支援している。 今後も利用者の認知症の度合いや相性を考慮して席替えを行ったり、間を仲介したりして対応していきたい。		

ライフハウス日ノ出(3階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今のところ、サービス利用が終了した利用者やご家族とのつながりは殆どない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や家庭環境をできるだけ把握し、本人との会話の中にかつての住まいや友人、趣味について取り入れてコミュニケーションを図っている。 入居前のアセスメントでより詳しい情報を入手し、入居後も本人や家族から得られた情報を記録に残して、全職員が利用者の生活歴等を把握し、コミュニケーションに役立てたり、ホームでの生活に生かしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家庭環境をできるだけ把握し、会話の中にかつて住んでいた所や友人のこと、趣味のこと等を取り入れている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日一人一人の身体機能・精神状態を様子観察し、少しの変化も具体的に細かく記録して、職員が利用者各自の一日の過ごし方を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントに基づいた利用者本位の目標を立て、利用者一人一人の特徴を把握して、本人・ご家族・介護者・往診医の意見を反映した介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間(約半年)を決め、期間が終了した際には結果と更新を作成している。終了以前に状態が変化した場合、その時点で見直しを行っている。		

ライフハウス日ノ出(3階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子や変化は細かく具体的に記録し、職員の申し送りや情報交換も確実にしながら日々の介護にあたっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	大規模なボランティアは事業所全体で実施し、2階デイサービスの利用者との交流を図っている。また、イベント時もデイサービスの利用者と共に参加している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの来訪が多く、習字・大正琴・傾聴・朗読・車椅子ダンスなど定期的開催し、楽しみの時間を提供してもらっている。また、年に二回消防署の指導の下、防災訓練を実施している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他のサービスを利用している利用者はいないが、必要に応じて支援していける様にしたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ、本人の意向や必要性が生じていないため、地域包括支援センターとは協働していない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一度事業所の往診支援がある。また、本人及びご家族の意見を尊重して、本人とかかりつけ医との連携を築きながら医療を受けている利用者もいる。		

ライフハウス日ノ出(3階)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>二週間に一度往診医が来て、利用者の症状に関して相談している。外部受診が必要の際は紹介状を書いていただき、スムーズに対処できるようにしている。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>事業所内のデイサービスの看護師に、利用者の日常の健康管理に関する相談にのってもらい、また必要時には医療処置をお願いしている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時は話し合い等で情報交換を行うが、退院時は病院側から一方的に通達されることが多く、ホームの受け入れ態勢が整っていない時がある。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>今まで、ADLが低下するとご家族の希望で特養に移られる方が多く、取り組みの事実がないため評価困難である。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>今後の変化に備えて検討はしているものの、具体的な準備はまだ成されていない。</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人の気持ちを傾聴し、不穏にならないようご家族の協力も仰ぎながら精神的なケアに努めている。</p>		

ライフハウス日ノ出(3階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その方の人間としての尊厳を大切にし、人生の先輩として尊敬しながら対応している。また、プライバシー・個人情報については常に気を付けている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人一人の方が自己実現できるように、言語・非言語のコミュニケーションを行いながら要望を叶えるための支援に努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	現在介護の負担量が多く、職員は常に時間に追われているため、一人一人のペースに合った支援を行いたいのが困難であるが、勤務体制や時間配分等の改善、事務の合理化を図り、会議で職員の意識を高めるような話し合いをすることによって、少しずつ利用者の希望にそった支援ができるようになってきている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2カ月に一度訪問美容があるため、希望者は髪染め・カット・パーマ・化粧等を施してもらっている。それ以外の日常でも、要望時に職員が支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者ではできる範囲内で、下準備・下膳・食器拭き等行っている。また、食への関心を深めてもらえるよう、毎回献立の説明をする。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が好む飲み物・菓子等をご家族が持参したり、職員と一緒に買い物に出掛けて購入したりして、日常的に楽しめるように支援している。	

ライフハウス日ノ出(3階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄管理表を活用しながら各自の排泄パターンを把握し、トイレ誘導・パット交換など一人一人のADLに合わせて残存機能を生かしたケアを支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の業務体制により、入浴日時は基本的に月・水・金曜日の1時半からと決まっている。しかし、入浴方法や順番などは利用者の希望を取り入れている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食後に横になりたい利用者や、日中2回は臥床希望を依頼するご家族の要望を取り入れ、一人一人のニーズに合った支援を行い、気持ち良い休息を確保している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食後の下膳や食器拭きの手伝い、洗濯物たたみ、一ヶ月に一回の掃除日に役割を決めての手伝い等を通じ、普段の暮らしを続けるための支援をしている。また、ボランティアの介入にて趣味や楽しみが増えている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や意思を大切に、地域の行事や催し物に参加する時やスーパーの買い物に行く時は、予めお金を渡し好きに使えるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や近隣散歩等の外出支援は行っている。職員の人数により、必ずしも要望があったその場で対応できるとは限らないが、臨機応変に対応している。	○	要望にあった支援ができる様に努力していきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人とご家族が自由に出掛けられる機会を作っているが、職員が利用者と一緒に遠出する機会は少ない。定期的にあるイベントのドライブや外食に留まっている。		

ライフハウス日ノ出(3階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人に希望があっても、ご家族が協力的でない場合は電話もなかなかできない現状である。手紙に関しては希望される方には手紙を書くのを手伝いご家族・友人等に出している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に制限はなく、年間を通じて自由に訪問できるようにしている。また、居室・リビング・1階・エントランス等、ゆっくり会話ができる場を提供している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベッドから立ち上がって転倒する危険がある利用者には、ベッドの使用をやめて床上の布団対応に切り替える等、身体拘束をしない方法での安全・安心なケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や共有空間は利用者一人一人が自由に生活できるよう、鍵をかけないケアを実施している。玄関のみ、安全上の問題で設立当初から自動ロックとなっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に利用者一人一人に対して目配り・気配りし、居場所確認や安全配慮に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の手の届かない高い場所に設置し、カーテンで隠す等工夫をしながら危険を防ぐ取り組みをしている。また、利用者の私物で危険を伴う物は職員側で一旦預かり、必要時に直接渡して使用後はまた返却してもらっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	段差や障害物を極力少なくし、筋力低下を防ぐ為毎日体操をしたり、誤薬を防ぐため再度確認してから服薬を行う等、利用者または自身の行動を見つめながら事故防止に取り組んでいる。		

ライフハウス日ノ出(3階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルはワーカールームに張り出してあり、救急搬送時用の持ち出しバッグも設置してあるが、日頃、定期的な訓練を行えていないため、自信のない職員もいる。	○	定期的な訓練により、全員が緊急時の対応をあわてずできるようにしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防局による防災訓練を1年に2回実施し、初期消火や避難等の方法を学んでいる。	○	近隣の人々の協力を得るための働きかけを行い、より実際の避難に必要な訓練を行うようにしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	段差や障害物を極力少なくし、筋力低下を防ぐ為毎日体操をしたり、誤薬を防ぐため再度確認してから服薬を行う等、利用者または自身の行動を見つめながら事故防止に取り組んでいる。 事故発生時は管理者・ユニットリーダーと連絡を取り指示のもと適切に対応している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定を行い記録をつけ、変化があった時は状態を把握してから上司・他職員に連絡・報告してすぐに対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の用法・時間・量・副作用等を確認し、服薬の時間がきたら正確に服用したかを確認し、その後も変化がないか様子観察を続けている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のため、食物繊維の多い食品や便の流れを良くする脂肪を含む食品の摂取を勧めている。また、毎日ラジオ体操や足上げ体操などの運動を実施している。毎食後トイレに座る習慣付けをしている。必要な方は毎朝ヨーグルトを個人購入で摂取中。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後や就寝前の歯磨きを励行している。介助時は口腔内の観察も行い、義歯の手入れと管理も行っている。また、週一回予防歯科の検診がある。		

ライフハウス日ノ出(3階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の食事摂取量・水分摂取量等は記録に残し、職員全員が栄養摂取状況を把握するよう努めている。一日全体を通じて不足している利用者には、別個に高カロリー食品等で補うようケアしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	横浜市配布の衛生管理の資料を各階に配布しています生活環境の衛生管理・身体の清潔・手洗いの励行・手指の清潔等、日常的に感染防止に努めている。また、毎年利用者・職員ともインフルエンザの予防接種を受けている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の消毒の徹底、食材の保管、衛生管理の徹底は義務づけている 調理者は手指や調理器具の洗浄消毒に心掛け、布巾・まな板等は毎晩漂白除菌している。また、食品は新鮮で安全な物をその日の内に使い切り、十分な加熱調理に注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	出入口には季節の花を植え、玄関には長椅子、エントランスにはテーブルセットを配置して面会者への心配りをしている。また、ゴミが落ちていないように毎日掃除もしている。車椅子で地下入口から屋外に出るまで傾斜が急勾配なため、出入りする時がたいへんである。雨除け、手すりの設置を実施。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるよう、共有の空間にはその時期の花や絵画や表札をディスプレイしている。また、フロア内は温度・湿度・換気・採光・照明等、衛生的環境にも配慮している。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	毎日の食卓は入居者の相性、介助の必要性を十分考慮して配置している。フロアにソファ・マッサージチェアを置き、各々自由にくつろいでもらえるようにしている。廊下の収納を兼ねたベンチも、入居者同士の談話の場として利用されている。		

ライフハウス日ノ出(3階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い入れのある生活用品を持ち込み、自宅に住んでいた頃と同じような居心地の良い居室作りをしている。また、イベント時の写真や自身で作った作品を飾り楽しんでもらっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者の身体状況に応じてこまめに温度調節を行っている。また、掃除の際は必ず換気し、新鮮な戸外の空気を取り入れている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有生活空間の要所に滑り止めや手摺りを設置して、安全と自立を心掛けた工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	布製の大きな手作りカレンダーによる現実見当識訓練や、文字・シンボルマークなどで現実の場所を明示している。また、誤認や錯覚時は職員が傾聴・受容し対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダや屋上で利用者がガーデニングを楽しんだり、椅子やテーブルを設置してお茶を飲用しながら外気浴をしている。	○	車いすの入居者も気軽に屋上に出て外気浴やティータイムを楽しめるよう、出入口の段差解消の工夫を検討中である。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

ライフハウス日ノ出(3階)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・私達のグループホームでは、利用者がメリハリをもって生活し、余生が充実した日々であってほしいことを望んで、毎月季節感を取り入れたイベントを実施しております。特に夏祭り・クリスマスは規模も大きく、ご家族や地域の方々も招いて盛大に行い利用者を楽しんでもらっています。

・利用者の誕生日には、その当日にパーティーを催し、好きな献立や手作りのケーキ、希望のプレゼント等を用意して、最高の笑顔と喜びを引き出す取り組みを行っています。

・私達介護者も、安心・安全・安楽の理念のもと、一日一日「今日も楽しかった、生きていてよかった」と利用者の皆様に思っただけけるよう、真心こめて介護にあたらせていただいています。

また何よりも利用者自身を大切にしながら自己を確立して、互いに協力し合いながら成長していきたいと切に思っています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ライフハウス日ノ出
(ユニット名)	4階
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市中区日ノ出町2丁目132-3
記入者名 (管理者)	(管理者)酒井智恵子 (記入者)佐藤重子(ユニットリーダー)
記入日	平成 20 年 11 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念等をフロア入り口に掲示し、理念である「豊かで穏やかな微笑みの介護」を実践すべく、知識と技術を切磋琢磨しながら、ご家族や地域の方々との関係を大切に開放的な施設を目指している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>新入職者には、オリエンテーションを行い、職員会議やカンファレンス等を利用し、安心・安全・安定の理念を共有化し、理念の実現に向けて日々取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>パンフレットや重要事項説明書にも提示し、地域の方々・利用者・家族に理解してもらえる様に取り組んでいる。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>事業所近くのお店に買い物に行った際は気軽に声を掛け触れ合っている。 地域の園児の来訪や 福祉体験として中学生の来訪もある。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の自治会の行事に出来るだけ参加し、地域の方々と交流を図っている。</p>	

ライフハウス日ノ出(4階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>人事異動・退職等により、利用者への生活支援で手一杯であり、地域の高齢者への支援に関しては、取り組む余裕が無いのが実情である。</p>	○	<p>地域の方々と意見交換を行いながら、全職員が共通の意識の元役立つ事を話し合い、出来る事から取り組んでいきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価結果の注意点は改善に向けて努力し、評価基準に達している点は、更に良いものとする為に取り組んでいる。評価を活かし入居者・職員がよりゆったりとした時間を過ごせるように取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>12月中旬に次回の予定をしている ホームの活動や利用者の状況の報告をし、委員からの助言を参考にしての取り組みや対応がなされている 会議の開催により地域の役員さん方との交流ができた事や入居者家族から新たな視点でホームを見てもらえるようになってきた</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町内会・横浜市グループホーム連絡協議会に加入し参加している。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度に関しては、利用者やご家族に説明し必要の有る方には、管理者と相談しながら、活用出来るように支援している。</p>	○	<p>全職員が制度を理解できる様に勉強会等、学べる機会を設けたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入浴時には、全身観察を行い、身体的虐待が無いかに注意し、職員会議・カンファレンス等で、心理的虐待が無いように、職員同士、気をつけて行く様にしている。</p>		

ライフハウス日ノ出(4階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

ライフハウス日ノ出(4階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加希望を取り入れ、受講してもらっている。内容は報告書で提出してもらっている。	○ 介護度の高い利用者が増えている為、適切な介護を提供できる様な研修を全職員が受けられるようにしたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜市グループホーム連絡協議会に加入して、近隣のグループホームや他のグループホームとの交流をしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	慰労の為、年1~2回程の親睦会がある 休憩室は設置してあるが、職員がゆっくり休憩をとれる感じではない	○ 休憩室をもっと整備して欲しい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務年数の経過により実践者研修等の参加申込の奨励をしている	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にアセスメントを実施し直接ご本人に面会し、相互間の理解に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話での問い合わせや、施設見学の段階から、相談しやすい雰囲気作りに努め、相談を受ける際は、ご家族の意見・要望等をよく傾聴・受容し、信頼関係を築く取り組みに励んでいる。	

ライフハウス日ノ出(4階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の日常生活を理解し、本人にとって、より良いサービス利用になるよう対応している。 当ホーム満室時は系列や交流のあるグループホームに紹介する様にしている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	性格・癖・好み等、家族に聞いたり、会話の中から聞き出したり、利用者の自己決定を尊重し介護に活かす様にしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との信頼関係を構築し残存能力を活かして、出来る事は一緒に行ったり、お願いしたりし、感謝の気持ちを伝え、支え合っていける様な関係作りを目指している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会やイベント等にも参加して頂いたり、来訪時には、日常の様子を話したり、利用者と一緒に談話したり、問題点には、解決に向けて相談を行っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事は便りで知らせ、一緒に参加できる様に心掛けている。 通院の同行・外出・外泊で協力して頂き、外出先で困らないように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時間を決めずいつでも訪問できる様にし、馴染みの人が自由に訪問できる様にしている。利用者が忘れないように、馴染みの人や、出身地の思い出話をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒に洗濯物をたたんで頂いたり、食器を拭いて頂いたり、関わりあえる場を提供している。テレビの前にソファを置き、自由に話しをしたり、スタッフが会話のきっかけを作ったりしている。		

ライフハウス日ノ出(4階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特養に移った利用者の所に面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者を決め、担当者中心に希望・訴えを話し合い、情報を共有し個別援助できる様にしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスで知り得た個人情報共有し、馴染みの食器・家具等を使用して頂き、環境の変化を少なくする様に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	起床時から、反応を見て、心身状態を把握し、日々のメモを記入し、職員が一人一人の一日の過ごし方を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が面会に来られない時が多いので、居室担当者を決め、月一回の会議で、意見交換し、家族へは必ず報告している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	問題点や状況に変化があった場合、職員間で意見交換し、家族とも話し合いながら、介護計画の見直しを行っている。		

ライフハウス日ノ出(4階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子は、日中は黒・夜間は青で色分けし、個人記録に記入し、情報を共有化している。又、ヒヤリハット・事故報告書等を記入し介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出来るだけ、本人や家族の要望に沿える様に心掛けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の方々に協力して頂いたり、ボランティアとして、書道・車椅子ダンス・傾聴・朗読・大正琴などを提供している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他のサービスを利用している利用者はいないが、必要に応じて支援していける様にしたい。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今の所、本人の意向や必要性が生じていない為、地域包括支援センターとは協働していないが、必要性が生じた場合は、連携をとりながら協働していきたい。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、事業所の往診がある。その他に、個人的なかかりつけ医の往診、家族希望の医療機関への受診をしている。		

ライフハウス日ノ出(4階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>家族の方を通して、定期受診の際に、変化があると相談をし、報告を受けている。外部受診が必要な時は、往診医に紹介状を書いてもらい、必要な対応ができる様にしている。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>事業所内のデイサービスの看護師に、利用者の日常の健康管理に関する相談にのってもらい、また必要時には医療処置をお願いしている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>家族が中心に行っている。退院時は注意点を詳しく聞き、介護に活かしている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ADLの低下に伴い、特養に移られる方が多いので、取り組みの事実は無い。</p>	○	<p>今後、現在の利用者が重度化した事を想定し、ご家族・往診医と相談しながら、終末期のあり方を明確にしたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>今後の変化に備えて検討はしているものの、具体的な準備はまだ成されていない</p>	○	<p>今後は、検討事項を明確にし、各セッション・系列施設との連携を取りながら、準備を進めていきたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>安全性・活動性・効率性・住環境等、移転先への情報交換を行っている。</p>		

ライフハウス日ノ出(4階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者から話かけられた時は、必ず立ち止まって、ゆっくり視線を合わせ、笑顔で対応。声掛けや会話は十分注意して行い、守秘義務というプライバシーは守っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者一人一人の思い・希望に沿える様、傾聴・受容を心掛けている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れは一応作成し、各職員対応しているが、利用者優先に連携を取り、常に、共感的な態度で接する。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装は本人希望の物を着用しているが、天気・季節を考慮し、声掛けを行う事もある。 訪問美容を利用し、希望により、髪染め・カット・パーマをしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には、本人の好物を提供し、食事は一緒のテーブルに職員が付き、会話をしながら食べ、準備・片付けは、出来る方と一緒にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が希望する飲食物等は個人購入し、希望時に摂取。家族が持参したお菓子等は、個別に楽しまれている。	

ライフハウス日ノ出(4階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		

ライフハウス日ノ出(4階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの制限もあり、緊急の場合しか、電話をかけたり出来ない。 希望がある場合手紙を書く支援は行っている	○	時々でも電話連絡し、声を聞かせてあげられる様に、家族と話し合っていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は作っておらず、訪問されたら笑顔でお迎えし、利用者と一緒にお茶を飲んで頂いたり、気兼ねなく過ごされる様に心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「拘束のない介護」を目指しており、常に会議等で話し合い、さりげない見守りを強化している。安定剤を使用の入居者については、家族・医師と相談し、最低限に抑えている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室内は鍵をかけていないが、ビルの為、エレベーターがあり危険度が高く、又、目が行き届かない事も有り、玄関は設立当初からオートロックになっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員一人一人が利用者の所在や様子を把握し、声を掛け合っています。居室は本人のプライバシーの場所と認識し、訪室時は必ずノックをし、返事を待ってから入室し、夜間は、睡眠の妨げにならない様に、巡視する配慮しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意物品については、安全な代用品はないか検討したり、工夫をして、行動や精神症状の背景にある、心のメカニズムに目をむけている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	筋力低下を防ぐ為毎日体操をしたり、整理整頓により障害物をなくし、誤薬を防ぐ為二重の確認を行い、事故防止に取り組んでいる。事故発生時は、管理者・ユニットリーダーと連絡を取り、指示もと適切に対応している。		

ライフハウス日ノ出(4階)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		
72	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		

ライフハウス日ノ出(4階)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算し、栄養バランスを考慮し体重の増減に気をつけています。水分・食事摂取量は表を作成し、一日を通してチェックを行い、全職員がわかり、足りない分は確保できる様に努力しています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	横浜市配布の衛生管理の資料を配布しています。インフルエンザは予防接種を行い、ノロウイルス等は、手洗い・うがいを実行し清潔を心掛けています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具の消毒、食材の保管、衛生管理の徹底は義務付けている。調理者は手指や調理器具の洗浄消毒に心がけ、布巾・まな板等は毎晩漂白除菌している。又、食品は新鮮で安全な物をその日の内に使いきり、十分な加熱調理に注意しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には、プランターを置き、花を植え、清潔にしています。。雨除け、手すりの設置を実施。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベランダには花を植え、居室の壁には季節にあった飾りを飾っている。屋上には、花々や野菜を植えている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを置き、思い思いにリラックスして頂ける様にしている。		

ライフハウス日ノ出(4階)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人の希望を取り入れ、使い慣れた物や、好みの物を安全に配慮し設置している。イベント時の写真や自身で作った作品を飾り、楽しんでもらっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は常に行い、気温調節もこまめに行い、外気温と差が無い様にしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア全体がバリアフリーになっている。手摺りも各所に取付けており、不安なく生活できる様にしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗がない様に、傷つけないようあたたかく見守り、布製の大きな手作りカレンダーによる、現実当識訓練や、文字・シンボルマークなどで、現実の場所を明示している。又、誤認や錯覚時は職員が傾聴・受容し対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには、花を植え、利用者が進んで水をやりを行ったり、職員と一緒に屋上に行き、季節の野菜を収穫したりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

ライフハウス日ノ出(4階)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・家庭的な雰囲気大切に、面会時の家族も気兼ねなく過ごせる様にお茶をお出し、自宅に帰った様な雰囲気作りをしています。
- ・利用者も、笑顔で安心して過ごせる様な空間作りを心掛け、時には気分転換にコーヒーや紅茶を入れ、映画鑑賞・紙芝居等を行っています。